

教えてください、あなたのことを。②8

静岡県富士宮市 ^{よつもと} 四本康久 さん（富士宮グリーンキーパー、元県議会議員）

つなげるつながる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 55歳、静岡県富士宮市の出身です。

富士宮市は海拔35mから富士山頂の3776mという高低差があります。そして世界遺産の構成資産が、「富士山本宮浅間大社」「人穴富士講遺跡」「白糸ノ滝」など6カ所もあります。富士宮やきそばも有名です。



Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 今から約10年前のこと。富士宮市では大量の可燃ごみが収集される日が続き、その量は清掃センターで1日に焼却できるごみ量の限界を超えるほどでした。そうした日が年間50～60日ほどあり、焼却炉に大きな負担がかかっていました。その現状を知ったことがきっかけで、ごみ問題に関心を持つようになりました。

ちょうどその頃、地元企業の信栄製紙（現：コアレックス信栄）さんがごみを減らす手段として、24時間365日受け入れ可能な古紙回収BOXの設置を計画しており、私はその回収BOXの設置を推進させるための啓発活動を始めました。

この古紙回収BOX（写真）は他に類を見ないものでした。新聞・雑誌はもちろん、封筒やメモ用紙などの雑紙、ホッチキス針やセロテープのついた紙、コーティングした紙など、汚れている紙でなければ何でも受け入れ可能です。回収した古紙は再生紙の資源となり、信栄製紙の再生紙製造技術により新たな紙に生まれ変わる仕組みになっています。

この活動の結果、市がBOXの設置場所を31ヶ所提供し、そこで回収された紙を企業が再生させる方式（富士宮方式）を確立させました。市民グループ「富士宮グリーンキーパー」は『富士宮方式』を啓発するために結成されました。



Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけは？

A ごみ問題をなんとか解決したいと考え、アンテナを張り巡らせたところ、ごみかんの存在を知りました。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 以前より親交があり環境問題に関心が深い中国大使の程永華氏を、コアレックス信栄が誇る再生紙技術の工場視察に案内しました。今後は再生紙製造技術の輸出、さらにはリサイクルのグローバル化へと発展させていきたいです。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 富士宮方式を首都圏に広げていきたいと思っていますので、ぜひセミナーの開催等の企画をよろしくお願いします！